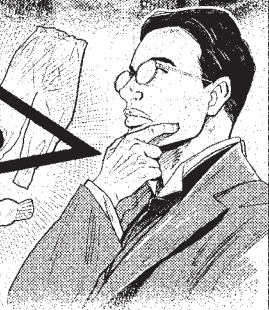


前回までのあらまし

鈴木商店は
北九州大里に新たな
工業団地を設け
製糖、小麦、麦酒、
焼酎などの
製造に乗り出す

また岩井商店は
メリヤス製造にも進出

官営八幡製鉄所
の稼働に刺激を受け
鈴木商店は
神戸製鋼所を設立し
岩井商店も
亜鉛鉄板製造の経営に
参画した



いつぼうの日本綿花は
インド、中国として
世界最大の綿花の
産地である米国に
視点を置く

また、世界各国からの
原料調達だけでなく
綿布輸出に乗り出すなど
世界市場への参入を
加速していった

日本の産業革命は
徐々に進行
していった



そんななか、世界的事件が起きる
大正三（一九一四）年の
第一次世界大戦の勃発である
日本の産業界に激震が走る

好況か不況か
双日の源流を支えた先駆者たちは
いかに動いたのか……
日本における産業革命は
ますます加速していく！

sojitz
Hassojitz

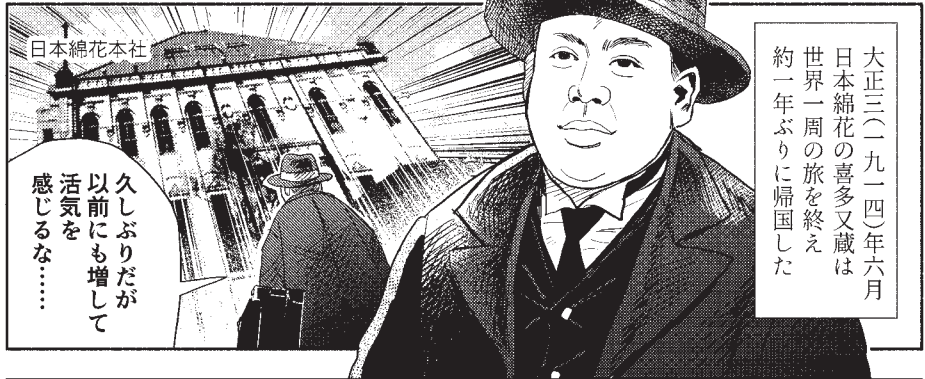
発想 × sojitz

第1章

日本綿花

大戦勃発と紡績大国の失速、
そして喜多又蔵の先眼力





大正三(一九一四)年六月
日本綿花の喜多又蔵は
世界一周の旅を終え
約一年ぶりに帰国した

久しぶりだが
以前にも増して
活気を
感じるな……



聞いたか?
喜多さんが帰国
したらしいぞ

おう、聞いた
三〇代の取締役
というだけでも
珍しいのに
世界一周とは
たまげた



おう、お前らは
喜多さんの
あの話を
知ってるか?

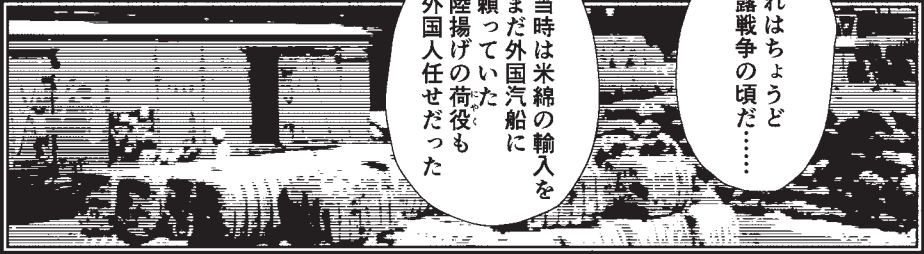
あの話?

ああ
お前たちは
知らないかもな



そして
エジプトをはじめ
イタリヤ、スイス、フランス、
英国、ドイツ等を歴訪し
帰路はシベリア鉄道に乗り
満洲經由でようやく帰阪した

喜多は前年の八月
米国テキサス州の
フォートワース出張所
を皮切りに
ニューヨークと
ヨーロッパを經由し
インドへ
ボンベイを中心に
精力的な視察を行う



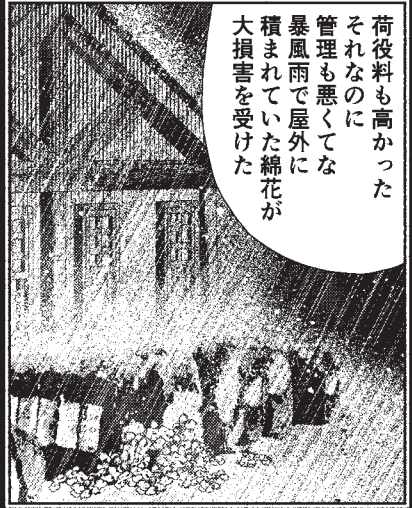
あれはちようど
日露戦争の頃だ……

当時は米綿の輸入を
まだ外国汽船に
頼っていた
陸揚げの荷役も
外国人任せだった



もちろん損害賠償を
求めたが拒否された

そこに
立ち上がったのが
喜多さんだ



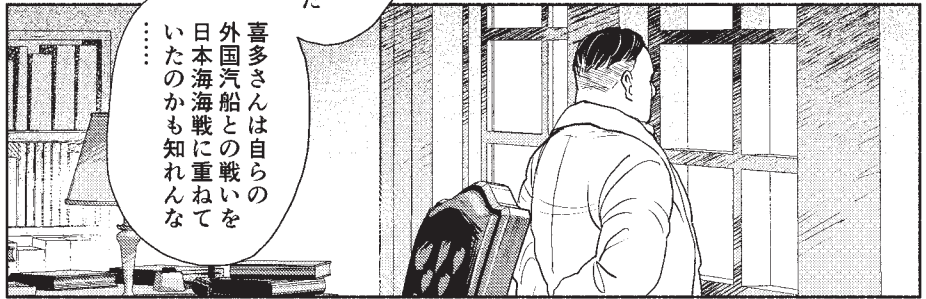
荷役料も高かった
それなのに
管理も悪くてな
暴風雨で屋外に
積まれていた綿花が
大損害を受けた



それで
終わりのないぞ
神戸港の負担を
軽減するために
大阪への直輸入も
喜多さんが開始
したんや



同業会の了解を得ると
強硬に交渉して
荷役料は半額になった
その後は荷役と保管を
日本の東京倉庫
(現・三菱倉庫)
委託したんや



それにしても
米国は広大だった
南郷三郎さんが
渡米したから
うちも米国市場を
もっと開拓できるぞ

南郷三郎は
柔道の祖・嘉納治五郎の
縁者で、八歳から講道館に
通い学習院時代には
皇太子時代の大正天皇も
彼の試合を見たという

故・田中市兵衛の
娘と結婚し
米国に渡っていた

南郷さんの
武士道は
アメリカでも
通用するだろう

実はな
まだ日本人が
ほとんど
手をつけていない
地域がある……

アフリカと南米だ
どう思う？

南米といえば
ブラジル移民を
思い出しますが
……

うむ
ブラジルは
地球の裏側だが
君の言うように
日本人もいる
米国出張の際に
安井豊太郎さんに
視察を命じて
きたよ

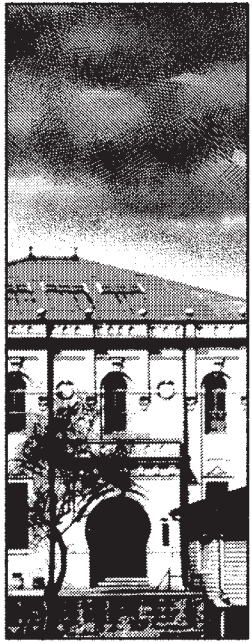
輸出では綿糸
だけではなく
綿布も取り扱い
中国向けを
拡大しよう

綿花の輸入は
トップクラス
であるが今後は
製品の輸出で
我々の存在感を
示していく
取り扱い品目も
増やすぞ

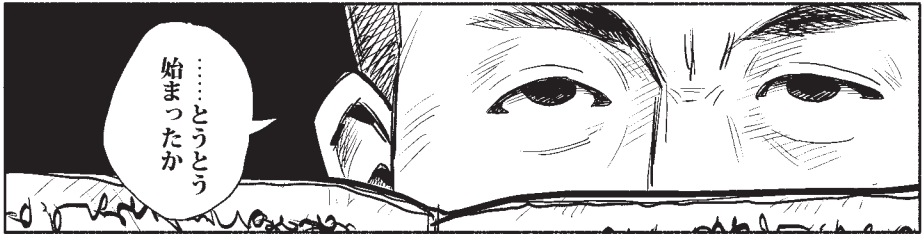
かしこまり
ました！



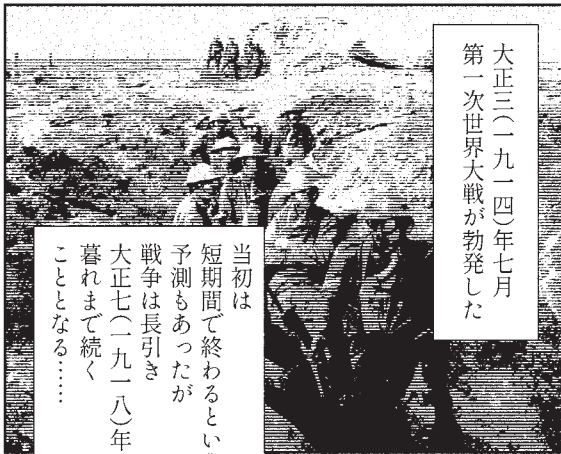
欧州でも感じたが
どうも世界情勢が
きな臭いな……



大変です
欧州で戦争が
はじまりました



……どうとう
始まったか



大正三(一九一四)年七月
第一次世界大戦が勃発した

当初は
短期間で終わるとい
予測もあったが
戦争は長引き
大正七(一九一八)年の
暮れまで続く
こととなる……

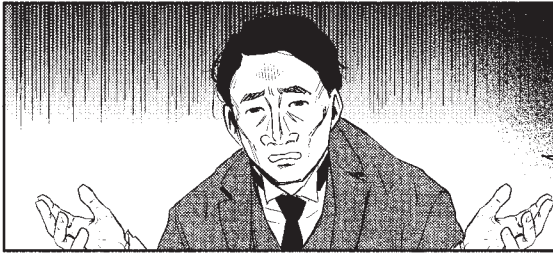


喜多さん
どうすれば……

まずは落ち着け
それから情報収集だ
この戦争日本も
無関係ではないぞ

ニューヨーク綿花
取引所は暴落し
閉鎖となりました

日本の三品取引所も
立会が一時停止と
大混乱です



慌てるな
日本が戦場になった
わけではない
しっかり食べるんだ



しっかし
船舶の不足
航路の困難によって
綿花の輸入も
製品の輸出も
悲観一色です
市場も暴落しています
紡績業界も一割の
操業短縮ですよ



わかっているから
それよりも
ご飯を食べなさい

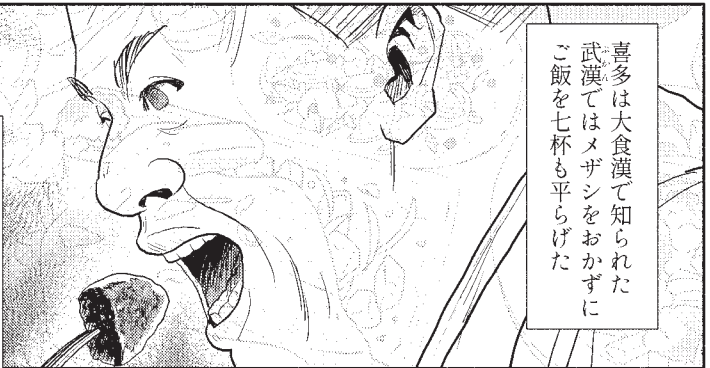
もぐっ
もぐっ

君はしっかり
食べているか？
まずは落ち着いて
ご飯を
食べるんだ



は、はあ……

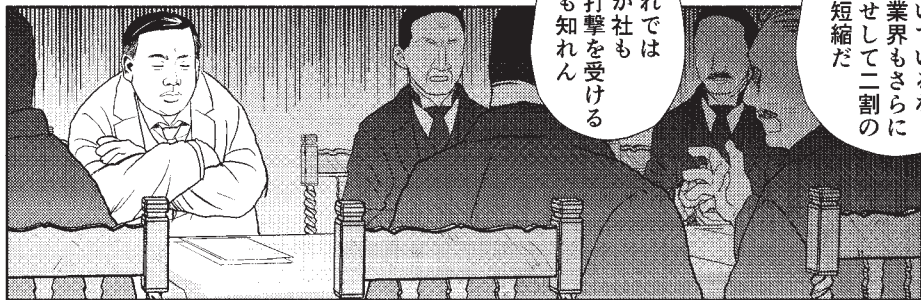
喜多は大食漢で知られた
武漢ではメザシをおかず
にご飯を七杯も平らげた



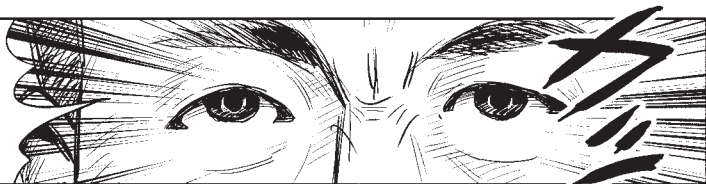
米国でも七面鳥の
巨大なモモ肉を食べ
さらにおかわりを所望し
米国人コックを
驚かせたという

欧州の戦争が
長引いているな
紡績業界もさらに
上乘せして二割の
操業短縮だ

これでは
我が社も
大打撃を受ける
かも知れん



好機
到り!!!



世界の工場と
呼ばれた英国は
戦争で輸出
どころではない
海上封鎖で
スエズ以東の
航路は不安定化
するだろう
つまり
欧州からの
輸出は相当に
細る……
となると
どこに注文が
来る？

!?



カタ
カタ

……
なるほどな

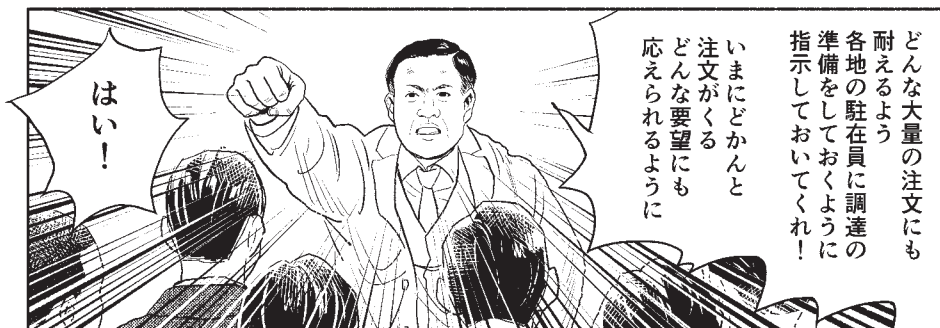
志方社長
増資の準備を
お願いします
この日本綿花
……いや、
日本は一気に
飛躍しますよ

さすがだな
世界一周は
君を更に
鍛えたようだ

……ワシら
では到底
かなわん
見通しやな

鐘紡の
武蔵山治さんや
日清紡の
宮島清次郎さん
が絶賛する
わけや……

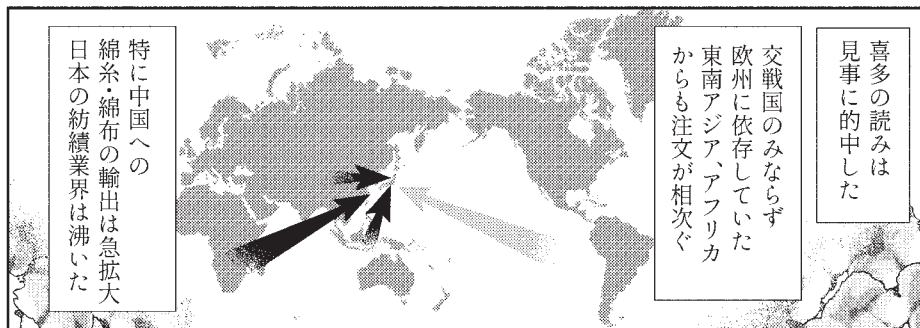




どんな大量の注文にも耐えるよう各地の駐在員に調達準備をしておくように指示しておいてくれ!

いまにどかんと注文がくるどんな要望にも応えられるように

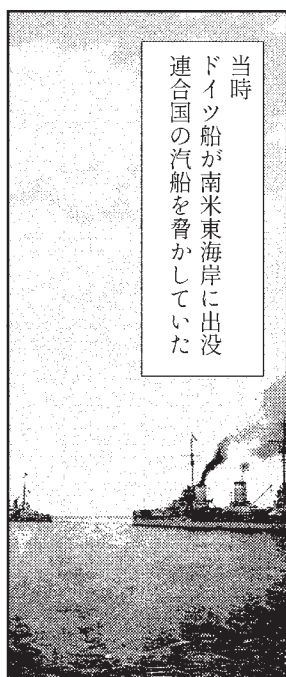
はい!



喜多の読みは見事に的中した

交戦国のみならず欧州に依存していた東南アジア、アフリカからも注文が相次ぐ

特に中国への綿糸・綿布の輸出は急拡大日本の紡績業界は沸いた



当時ドイツ船が南米東海岸に出没連合国の汽船を脅かしていた



ああ、聞いているそれでひとつ策を思いついた



大正五(一九一六)年喜多はある秘策を打つ

喜多さん戦争で英国植民地の豪州からの羊毛の輸入が禁止になって毛織物会社がつまづいているそうです

喜多の目は
地球の裏側をも
見ていた

大岡破挫魔^{おおかたぼざま}くん
に
至急電報だ

大岡くんには
アルゼンチンに
行ってもらう

アルゼンチン!?
なっ南米や
ないですか!!



大岡破挫魔は
漢口支店長を
つとめた後
ボンベイ支店長
となった優秀な
人材であった

ううむ
また彼は海外駐在
しかも南米……
大丈夫ですかね

大岡君なら
できるさ

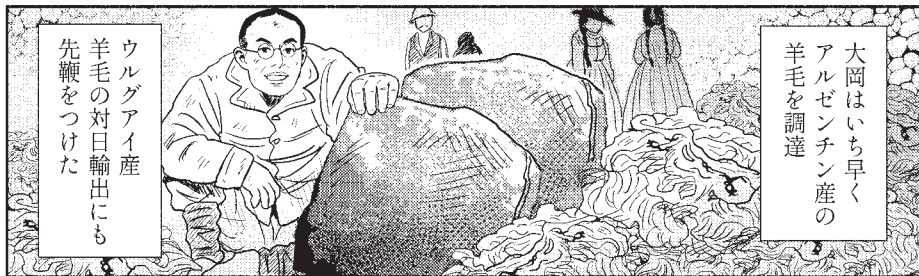
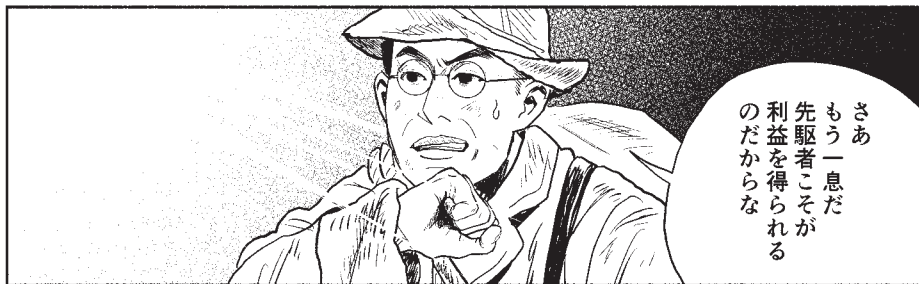


大岡は
ニューヨークを経て
パナマ運河を渡り

東海岸のドイツ軍を
避けてチリから
アンデス山脈を越え
アルゼンチンに入った

ついに
地球の裏側だ





大岡の成功により
日本綿花は大きな
利益を得る

そして喜多は
更に先を見ていた

諸君
まだまだ日本が
未開拓の地がある！
商社として
開拓精神を忘れず
果敢に挑んで欲しい

……そうだな
インド駐在員には
インドの奥地
そして西と東を
見ろと伝える

